

点对

murashit

ええと……。いや、たしかに僕の鞆の中に入ってたのは……たしかに、たしかに入ってたけどいや俺やってないですってマジで、マジに、だって持ってたのアイツのほうでしょ？ 俺知らない……。覚えがないんです。たぶん、つーか絶対これアイツが入れたんですよ。だっておかしいじゃないですもん、ほんと、これほんとに。だって言ったでしょ、びっくりしただけで。いや俺だって一回もいですか、おばさんが気付いたのだったってアイツがキョドってたからなんですよね。んで捕まってみた店でパクったことないのかって言われたらさ、やったこと、あるけど。そこは正直に言うよ。でもこら僕がなんかパクってたとか言って、そんなの通じないでしょう？ 違います？ そんな、僕がやっこではやってないから。マジで、マジ。まーじーでー。正直なんすよ俺こう見えて。挙動不審だったんならアイツが挙動不審になる理由、どこにもないでしょう。そうじゃないですか。いやおばさんって、そんなさー、そりゃアイツが、弟がいきなり雑に本パクリはじめたらそりゃびっくりするでしは知らないかもしれないけど、そういう奴なんです。昔からです。ほんと昔からアイツ僕のこと昔かよ。こつちはちよつとエロ本冷やかしに來ただけだったのにさ。いやそれくらいいいじゃないすか、ら嫌ってたから、だからですよ。ちよつと聞いてくださいって。ぜんぜん今関係ある話ですよこれほおじさんだつてそういう頃、あつたでしょ？ でしょ？ あーもー。だいたい俺いつもアイツに迷惑んとに。いいから聞いてください。聞いてくださいってば。とりあえず、ね。ええと、昔からなんでばっかかけられてきたんですよ。今回だつてそうなわけで。思い出しただけで腹立ってきた。今でこ

す。昔からそうで、たとえば、そうだな、たとえばええと、小学校、小学生のころ、僕にも好きな子
そ、そもそも喋らないからいいんだけど、小学生のころとかほんとひどくて。カレンちゃんってね、好
がいたんですよ。僕にもっていうか、まあいいや。名前言ったほうがリアリティありますよ。事
きな子がいて。いや俺じゃなくてアイツに。いや俺にもいたけどそれはよくて。興味ないすか？ま
なんだし。

あ、まあ。

西園さん。そうそう。だったはずです。下の名前忘れちゃったんですけど。なんだっけな、忘れち
カレンって、あれなんて字書いたっけな？ いやそんなことどうでもいいんだけど。実際、名前ど
やうもんですね。それはいいんですけど。まあ聞いてくださいって。で、小学生で、そんな、言わな
おりかわいくて。今谷町商に通ってるはずで、そりやもう会う機会なんて卒業してから一切ないけど。
いじゃないですか好きって。女の子にですよ。今でも言わないですけど。まあ昔の話なんでいいんで
どうなんでしょね、あのころは俺よりちよつと背え高かったけど。おじさん、奥さん背高いほうっ
すけど。今なにしているのかなって思うけど知らないですけど。言わないじゃないですか好きって。い
すよね。俺はちよつと低い子のほうが好きっす。小動物系っていうんすかね？ まあそんな話するわ
やわかんないかもしれないですけど、小学生男子ってそういうもんなんです。それで、まあ、その頃
けですよ、家で。してたんだよなーあの頃は。それこそ今なんて顔合わせても喋らないけど。嫌そう
もうすつかり険悪で、それでも双子で部屋が同じだったから顔合わせなきゃいけないって苦痛でした。
な顔するんですよアイツ、いつも。俺だって好きで顔合わせてるわけでもないのに。でもそれでも好

好きな子の話したとかしたはずないから、友達経由で聞いたんでしょね。ありそうだな。なんか好きな子の話してたんすよね。そういうもんなんすかね。アイツけっこうあれで、自分語り好きでウザってて。ここまで言ったらわかると思うんですけど、っていうか僕、なんか、ですけどばっか言ってくて。いいかげんウザくて、ウザかったからですけどほんとに、おせっかいみたいなのもりはなからますね。まあいいんですけどってまた言っちゃってますけど、わかると思うんですけど、本人にバラったと思うんだけどどうだろうな、その頃はまだ兄としてみたいのがあったかもしないけど。いされちゃって、アイツが、本人に言ったらしいんですよ。アイツが、俺の弟が加蓮のこと好きなんだい加減本人に言えよって思ってる。だからいつだっけな、小六の夏休みが終わった始業式の日だった。あーそうだ、西園加蓮さんだ。名前のことですよ。まあ僕もその場面実際に見たわけじゃないな、ちょうど日直が同じで。始業式に日直重なっちゃったら面倒ですよ。けっこう仕事あって。俺そんですけどね。あとから西園さんに聞いただけで。嬉しいんだけど、そういうのはちよっと……。みれくらいはちゃんとやりますよ。やってましたよ。こう見えて真面目なんです。んで、放課後に職員室たいな……そんな言い方ってあります？ 夏休みの登校日だったらしくて、それから今日まで悩んでプリント届けに行くってなったときに、まあ一緒に行くかってね、なって、そういうえらくらいの感たとかなんか言ってる。二学期、始業式の日ですよ。いや、べつにその子が悪いわけじゃないとは思じで。そういうええ俺の弟がニシヅノさんのこと、ああそう、名字、ニシヅノさんっていうんですけど、ってるんですけど、そういう問題じゃなくて。まあでも言い方はありますよね……。悪いというか勘まあ心の中ではカレンちゃんって呼んでたんですけど、ニシヅノさんのこと好きらしいからよろしく

弁してよってどうか、それくらい許してくださいよ。だって、もう、顔が、顔が迷惑そうなんですよ。つって。そしたらね。は？ みたいな顔してた。ほんとに、は？ っって。あの顔めっちゃくちゃ可愛かこうこうこういうことあつてって説明されて。その顔で。で、あれどういうこと？ っって、こっち見ったから今でも覚えてるんすよね。いやさっきも言ったけど俺は背が高い子苦手なんで、それはそれ上げてきて。いやこっちは全然知らないんですけど……。とっさに、いや、いや違うんですって言つとして。は？ っって一瞬間まるんすよね。人間ってね。そういうときにね。子供でも。漫画みたいで。えっじゃあ嘘だったってこと？ そりゃそうですよとかいう話になっちゃって。いやそりゃそうに。なんならめっちゃウケてるように聞こえるかもしれないですけど、いや、俺真面目に言ってますなるでしょ。なりますよ。だってあんな顔されたらもうどうしようもないじゃないですか。そうですよ。だってほら真面目なんで。めっちゃくちゃ可愛かったんですよ。ちようど一階の渡り廊下に出たときよ、まさに今のおばさんの顔みたいな。いや僕なんにもやってないって言ってますよね。だからおんころで、それまで反射してた蟬の声が直接耳に入る、ようになったタイミングで、めっちゃくちゃ可愛なんですよ。いつもそうなんです、アイツのせいでその顔されるんです。それからもう、ずっとかったんですよ。カレンちゃんの向こうに残暑の空気が揺れて、あれからそう、ずっと、覚えてるんですよ。ずっと、あの顔を。

んで、しばらくそのまま立ち止まっちゃって、そのあと嘘でしよみたいですよ。ずっと、あの顔を。

いやもういいんすけど、その子のことなんて別に、今はもうよくて。諦めた話になって、いやほんとだからって。なんなら二学期始まったら聞いてみたらって。変な空気にめたってどうかそんな、そんなもんでしょ小学生のころに好きだった子なんて。だけどそういう奴だ

なつて、いやそれは予想してたんですけど、そのままプリント届けて別れて帰つて。それで夏休み明つてわかつた、アイツが、わかつてたつもりだけど、ほんとそうだったんだつて。そんな、誰か代わけてみたら、ひどいんですよ、アイツ、違つて言い張つたらしくて。僕が嘘ついたみたいになつてりに言つてほしいなんて、そんな奴いるわけないでしょ。言つたでしょ、そういうもんなんすよ、別女子からめぢやくちや言われて。おかしいでしょ？ おかしくないです？ 言わないから、言わなきにどうなりたくかそういうんじやなかつたから俺は。余計なおせっかいいいとこつていうか、おやわからないから言つてやつただけなのに。勝手？ いやね、むしろアイツ、誰かが代わりに言つてせつかいつーか、あんなんだの悪意でしょ。悪意じゃないわけなんですつて。だつてその日帰つたくれたらと言つてたんですよ。その通りにしてやつたのに……。

俺。僕。

そんなことばかりで。まあそう、ほかにも、いくらでもあつて。

何か間違つたこと言つてます？

俺。

だから今日だつてアイツが 僕がたまたま居合わせたからつて、なすりつけようとしてるに決まつてますよ。僕がこいつも来てるの知つてますよね。見覚えありますよね？ とときどき買つてるじやな奴だから。そもそも、なんで俺が本屋に来るのにアイツがついてくるんだつて話なわけ。俺いつもいですか。僕はおじさんの顔覚えてます。いつもこうやつて、今だつてこの部屋まで聞こえてきてる立ち読みして帰つてるけどアイツがここ来てるのなんか見たことないわけ。つかおばさんだつて、い

くらい、ゴルトベルクを、めちやくちや大きな音で流してるのも知ってますよ。こればかりなこと。つつも俺のこと睨んでるでしょ。立ち読みしてたら。すみませんって……でもだから知ってるでしょ。いつもここ、この本屋に来てるから、だから知ってる。でもアイツはそうじゃない。同じ時間に下校をはじめて、だいたい同じ時間に家に着いてるはずなのに、見たことないんですよ。はいいいです、言だもん。

わなくてもわかるから。双子だから見分けつかないって言いたいんでしょ？ たしかに似てるかもしよく言われるけどぜん

れないけど、そこは否定しませんけど、そんな見分けつかないほどですか？ ほかの双子も苦労してぜん……ぜんぜんとまでは言えないか、でもやっぱ似てねーなって思うんすよね。まあ、慣れてるつるんでしようかね。ちや慣れてるけど。

見たくないのに顔見てるから違いがわかるだけって、まあ、そう言われればそうかもしれないですけど、でも性格だつて趣味だつて違うわけだから。それで言えば、中学生のとときかもひどいことあったんですよね。覚えてるもんですね、中二の冬休み明けた連休の三日目で、相当暇してたんですよ。冬だっけなあ。うん……うん、そうだったはず。それこそちょうど成人の日で、なんでかっていう

年末年始から連休にかけてめちゃくちゃしようもないゲームをクリアしたばかりで、クリアまでは我慢してやった次の日で、時間と小遣い損したなってなった日だから印象に残ってるんですけど。昼にたの覚えてるから、だからそう、成人の日です。思い出そうとすれば思い出せるもんなんすね。

焼きそば食べたってのもなぜか覚えてるけど、これ今関係ないか。　　でまあそれ食って、そうだ、ちよ

うど欲しかったゲームがあった、と。でもって、今もうないけど知ってると思うんですけど、あっち掛けるかってなって。まあ、ね、それこそ、この商店街に来るくらいしかできることないんですけど、その角にあったゲーム屋覚えてますよね。あそこ行くかって。去年なくなっちゃったとこ。あそこんちのそれでも家にいるよりはましかなと思って。暇潰しに。けっこう散歩とかするほうなんで。まあその子俺の同級生だったんですけど転校しちゃって。ってそれこそこらへんの話だからおじさんのほうへんふらふら歩いて、ゲーセンでも冷やかして帰ろうかなって。そうそう、あの角の。去年閉まっちゃがよく知ってるか。学校では夜逃げしたんだっていう話になってましたけど、たしかに今もそのやつてからほんとにこのへん遊ぶとこないんですよ。いやもとからなかったんですけど、うん、今まんま残ってるし、そういうことなんすよね？　それはいいんですけど、お年玉もあるわけだし行くかどきゲーセン行くなって奴もそんなないですし。チャリでイオン行くとか、そういうのばっかりです。　　でまあ、そうと決めたら顔洗って着替えて出る準備するわけ。　　そこで気がついたんですよ。服で、出かけるなら、寝て起きたまんまだからまず着替えなきゃと。

がない。自分の服が、ない。ないっていうか、どうもそのところの雪で洗っても乾いてないらしくて。母親がそう言つてて。アイツの着ていったらいいんじゃない、みたいな話になったんですよ。めっちゃオカンが言うには、しょうがないからお兄ちゃんを着て行けばいいんじゃない？ っ。だからさっくちや嫌じゃないですかそんなの。そりゃ今制服着てるからわかんないかもしれないですけど、いつもの話、趣味も違うから、まあ、着てる服も違うわけじゃないすか。つってもだいたいはオカンが買同じ床屋行つてるからわかんないかもしれないんですけど、それでいいのか親！ っ。つてなつたんですけど。つてきたもの着てたとはいえ、なんとなくこれはこっちみたいなの、あるんすよ。そういうもんなまあね、親からしたら兄弟に対してってそんなものなんでしょうね。でもま、誰かと会うつもりもなですつて。そもそもアイツのこと嫌いだしうわーつてなつたんですけど、まあゲーム買いに行くだけだし、暇だから仕方なく。だから着て行つたんですけど。……ああそうだ、アイツは家にいたと思ひしもういいやとも思つて。

ます。あんまり覚えてないというか、出掛けてたんだつたら、それこそ二つも服余つてなかつたんじゃないかな。貧乏かよつて感じですけど、いやべつにそんなことなかつたですけど。たぶん。中流家庭つてやつです。たぶんきつと。いやほんととはそういうのとはまた違う気がしますけど。まあいいや、

なんの話でしたっけ。ええと……。

おしまいのアリアのおしまいの余韻だけが残る小さな書店の奥の冬の寒い寒い日のそれでもすこし暖かくなった午後、服を着る

小さな部屋。

なんか急に静かになったからボケつとしちゃったじゃないですか。そう、そう、アイツ

の服着てったって話。サイズはもちろん同じなんですけど、アイツのほうが地味な色が好きで、そればかり先に選ぶんですね。こっちはそんなこだわらないというか、なかったというか、正直よく

わかんないから残ったのでいいやってなってたんですけど。今でこそ自分で服とか買うようになりましたけど、小遣いが少ないからなかなかアレなんですけど。もうちょっと欲しいんですね、正直な

ところ。友達多いほうじゃないから服とか最低限しか持ってないけど、さすがにと思うんです。行くようなことするほうじゃないから、今だってなんでもいいといえぱなんでもいいんだけど。ちい

さな蜘蛛が壁を這い、万引きの瞬間をとらえそこねた防犯カメラから二人ぶんの衣類がごちゃまぜに入った筆筒に下りて、服にまとわりつき、外に出たがっている。まあなんで、違和感があったんです

ちよつと気色悪いというと言いき

よ。違和感……違和感というか、具体的に言ったほうがいいですかね。まず匂いが違う、同じ洗剤使なんすけど、これ俺の服じゃないっていうのが強烈にあつて。そもそもアイツ荒っぽいところがあるつてるのに、違う気がしたんです。いや滲み出るものが違うとも思えないんですけど、まず嗅覚からからかなんなのか、擦り切れぐあいが変わる。そんなに違うか？　つていうくらい、ちよつと笑っちゃうきたんですよ。錯覚だったんですかね。しかもなんかまあたか……気さえて。それに袖を通して、アイツと自分の違いってこの服の部分にしかないんじゃないかみたいになる。そんなわけないのに、さつきも言いましたけど違うはずなのに、そう思っちゃう。アイツの、なんていうのかな、アイツのガワ？　に、つつまれて、なんか気色悪い悪い思いをして、アイツになつてるんじゃないかって、感じる。

そう、だから、なつたんですよ、だからあれからずっと俺は僕なんです。だからアイツはそれが気あのととき、自分こそがアイツに。

に入らなくて、気に入るも入らないものなのに、だからいつも嫌がらせしてくるんですよ。完全にア

イツになったから、さつきも言いましたけどその角の、あれなんでしたっけ、あれ？ あそこ、何

が……って、いやそうだ、ゲーム屋。
ゲーセン。だからまあ、そうなって。出掛けたら、寒いし。いや日は出て

てよかったんですけど、寒いもんは寒いでしょう。っていうか覚えてます？ あの年……だから三年

前ですよ、その日はともかく、そのシーズンはけっこう雪降ってましたよね。たしかにそのとおり
むしろ暖冬ではなか

で、目に見えて売上が落ち、今年の旅行はなしだなんて妻と話して、それでも結局八月だったか、ひ
つたろうか。寒さの苦手な夫がいつも目に見えて快活で、気候くらいでここまで変わるものかと
まりも呼んで、県南の温泉で二泊したことを思い出した。タイヤに固められもはや雪ではなくただの
おかしく思ったのは、たしかその年のことだったはずだ。

氷が敷き詰められたようにしか見えない道路の、なかほどを歩くことは早々にあきらめたようで、少
年は端も端、排気ガスに汚れつつもかすかに残った雪を音を立て立て踏みながら、靴の側面からしみ
る冷たさに抗いながら、商店街までの坂をくだってゆく。昨日であれば、もつと柔い雪であればこん

な心地になることもなかったのだろうか。

それでもう、冷たいし寒いし。自転車で来りやよかった、いや自転車だと滑りまくるからやめたん
うち、駅の裏つかわのその向こうあたりにあるんすよ。あーそう、うちらへん製材所があったんだ
だって思いながら、うちから川、越えて、駅のほうまでようやく歩いて、線路渡った先がこのへんな
って聞いたことあります、っていうか知ってますよね。なんで駅から踏切、渡って、んであっち側の
で、だから橋。橋の上って寒いですよ。まあもうすぐだなんてところで、ようやく本題なんですけ
そうそうこっち側のじゃなくて手摺りが赤いほう、まだ十五分くらい歩くなとか、雪でもなきやチャ
ど、名前、僕の、ええとだから、名字のほうを呼んでるんですよ、なんか誰かが。誰かがっていうか、
りで来る距離だよなとか思ってたら、呼ばれたんですよ。名前を。これ大事なことなんですよ、
知らない子が。そりゃ誰かってことか。たぶん自分と同じ年くらいなんだろうなってことはわかるん
ど、名字のほうね。うわ、誰か知らんけど呼んでる、つって、ちよつとビビるじゃないすか。しかも
ですけど、いきなり名前呼ばれるのってちよつと怖いでしょう？ 気づかなかったフリして無視しよ
タメくらののが、どこの学校か知らないけどってなつたら。あー隣のクラスの奴かなとか一瞬思っ
うかと思っただんですけど、まあ、橋。渡ってるから。そうもいかないわけですよ。ん？ みたいな顔
けど、近づいてくとまあ、違うし、なんかアイツみたいに服の趣味がよくない。趣味がよくないつ
して近づくしかなくて。近づくと、既視感……既視感というか、なんだろうな、あの、その、そのと
たってこんな田舎だと限界あるんすけど。田舎ですよ。ええ。というかつまり、アイツみたいに服の趣

きの服に、袖を通し脚を通したときの感覚がして……。味が悪いってまあ、そのときの俺の服それなんだけど。

だからほとんどアイツに相對するための足取りをして、それはもちろんアイツではなかったけれど、どうやらその友人だったらしい、そうとしか思えず、そしてどうやら自分をアイツと勘違いしたらしい、突然の北風にその誰かの影が吹かれ、ごうごうとした音でよく聞きとれなかったけれど、どうやら嫌味な顔をして嫌味なことを言っていたらしい、いまや暗がりとしての記憶しかない、その誰かの顔つきでわかる、それだけを言うために立ち止まって呼ぶ、すぐにすれ違って駅のほうへ向かうなんてことをさせるような、なにかひどいことをしたのは、アイツだからなのだろうと無理矢理納得させようとする。それは私だったのだろうか。そのころあそこはゲームセンターでもゲーム屋でもなく、ただの駄菓子屋だったけれど、その次の代に夫との結婚、と聞くと幼馴染のように思えるがそうではなく、同窓会、小学校の同窓会はあれ一度きりだつたが、そこで会って、しばらくして、なにかを諦めたかのようにつきあうようになるまで、彼

れ、親父に言われるまま見合いをして、婿に入り、妻の実家のこの店を切り盛りするようになったの
のことなどすっかり忘れていたのだった。駅前前の唯一の飲み屋、といいつつ中華料理屋でしかないの
と同じころ。それより十数年も昔、中学生のころ、言いつけられたお遣いをこなした帰り、彼に声を
だか、一次会がおひらきになって、ちょうど帰りが一緒になった。それこそあの橋まで来たところ
でかけたのはほかでもない私だった。ただ、なにを言ったのか。目の前の少年より、背が高く声も高く、
声をかけられたのだ。小六の夏休みのことを覚えてるかと思ねられ、なにも覚えていなかったから、
その顔はもはや暗がりではなくなつた彼は、たしかにいけすかない男で、今はどうしているか、そ
うだつてと思ひ出すフリをしているうちに、それならそれでよかつたと、結局教えてはくれなかつ
た。今だつて結局知らないままだ。だからもうなんだつたんだ今のはつてなつて、それから、しばら
くしてようやく腹が立つてきたんです。アイツが何したのか知らないし、そのあとずっとイライラし

たまんまでしようがないから、家に帰つたときに、アイツがいたから、こんなことあつただけどな
んなんだよつて。言つて。そしたらどんな奴だよそれ、つて。そりゃそうなんですけど、でもそんな
詳しく覚えてもないから、というか言葉で説明できるもんでもないでしょう。髪の毛の長さがこんくら

いで、背がこんくらいでとかくらい。だから、こんな奴だって自分のことを指差す……いや指差しはしなかったですけど、だってアイツと似たような格好してたから、だからアイツの知り合いだろうと
思ったわけじゃないですか。そしたら、え、俺？　って、なんの話してるかわかって、言い出す。
僕ってこと？　ってふざけたことをぬかしやがるんすよ。

でもよく考えてみてほしいんですけど、もうそのときの自分はアイツなんだから、あの気色の悪い
なまあたかさにつつまれて、なりかわっていたんだから、逆に、言えば、アイツの中にはなにもな
い、だからアイツはその誰かだったとしてもおかしくない、ってことは、アイツのせいでこんな目に
遭ったってどうか、いやそれはそうなんですけど、それはもう、そうに決まってるんですけど、もう
それって、アイツのせいとかそれだけじゃなくて、アイツが、ほかでもないアイツが、その顔の
違う誰かであって、アイツに嫌味な顔をして嫌味なことを言われたんだって、わかったんです。そう、

わかったんです、そのときに。すると、店のほうから呼ぶ声が割って入る。あの、こちらの方、取り

寄せだそうなので、お願いしてもいいですか？ 向かい合つた少年から目をそらし、時計をちらと眺
僕がいて、アイツのなかにはなにもなくて、それでも迷惑をかけてくるんです。似てるだなんて、ちっ
める。七時を回っているようだ。そういえば彼女にはまだやり方を教えていなかった、とはいえ、今
とも似てないのに、だから迷惑がかかる。万引きをしたのはだから僕、俺で、しかいなくて、そうで
どきめつたにない客注への対応を覚えてもらうほうがよっぽど手間だろう。そうして、ちよつと待っ
ないアイツはそもそもここにいない。だからアイツはきつと見合いたかんだかして結婚してずつと
て、と、店主はどちらに言うでもなく答える。年に一、二度はあることで、見咎められず帳尻が合わ
ここで暮らすなり、昔好きだつた子と同窓会で再会してやっぱり結婚して暮らすなり、アイツは、空
ないだけということはさらに頻繁で、当然見つけたならば止めないわけにはいかないのだけれど、や
つぽのまんま、この街にいつづけて、盗まれた本は、アイツのもとには、過去にも未来にも、ひとと
はり慣れることもできない。彼にはできなかった。それで結局保護者を呼ぶでも警察を呼ぶでもなく
きだつてない。だからたしかにここにその本はあつて、この手でこの、角の擦り切れた鞆へ急ぎ放り
放免してしまうのは、彼のなかに、なにもない、なにもないからだといふのか。だから、じゃあ、わ
込んだもので、だつてそれは、ここに、それができる俺が、僕が、いるのだといふことを、あなたに
かつた、二度としないと約束してくれるなら、今日はいいいよ。次はない
見せつけるためだ。ほかに理由なんて。それだけだつたから。次はない
から。二度とここへは来ない
けど、次はないと信じている

から。とまあそんな顛末だったんだよねと、話し終われば、娘はなにやら上機嫌らしい顔をしながら、「ママ、それ、万引きした子は、双子の片割れのこと、なんていうかな……好きだったんじゃないの」
そうかもしれない。ひまりの声が露天風呂にのほせた頭にほやけ、私は意外そうな顔を作ってやる。